

サンドリーヌ・ボネール ジャック・ガンブラン

— 僕は殺してない。
— 彼とは寝てないわ。

誰 愛
も に
が お
犯 い
罪 て
者 は
。 、

「クリクリのいた夏」のジャック・ガンブラン最新主演作

嘘の心

クロード・シャブロール監督作品

un film de CLAUDE CHABROL

a u c æ u r d u m e n s o n g e

SANDRINE BONNAIRE JACQUES CAMBLIN VALERIA BRUNI-TEDESCHI ANTOINE DE CAUNES BERNARD VARELY GULLE OGIER PIERRE MARTOT Scénario et dialogues ODILE BARSKI et CLAUDE CHABROL

Directeur de production YVON CRENN photo EDUARDO SERRA A.F.C. son JEAN-BERNARD THOMASSON scripte AURÉO CHABROL costumes CORINNE JORRY décorer FRANCIS BENOIT-FRESCO montage MONIQUE FAROULLIS assistante réalisateur CÉCILE MAISTRE

Musique originale MATTHIEU CHABROL auteur des œuvres réalisées pour le film VINCENT BLOQUES une coproduction M42 PRODUCTIONS FRANCE 3 CINÉMA avec la participation de CANAL+ et de SOFILMA, et avec le soutien de la procirop.

ヴァレリア・ブルーニ・テデスキ アントワーン・ドゥ・コーヌ ビュル・オジエ 脚本・台詞 オティル・バルスキ クロード・シャブロール 撮影 エドゥアルド・セラ 音楽 マチュール・シャブロール 1998年 | フランス | 113分 | カラー | ヴィスタ | ドルビー-SRD 配給 セテラ

「嘘」は

「邪悪」ではない

香山リカ [精神科医／神戸芸術工科大学助教授]

朴な住人たちは、計らずしもそれぞれが秘める「嘘」に目を向けなければならなくなる。たとえば、ヴィヴィアンヌは、自宅で細々と絵画教室を営む夫のルネを訪問看護の仕事をして支える生活に満足していたはずだった。ところが、疑惑の目にさらされる夫のことを売れっ子作家のデモに相談するうち、自分の中に彼にひかれる気持ちがあったことを発見してしまう。自分が自分についていた「嘘」に戸惑いながら、デモとの秘め事をさるるやさしさで夫に隠そうとするヴィヴィアンヌ…。彼女のその振る舞いは、たしかに「愚か」かもしれないが、決して「邪悪」ではないだろう。そうやって人々の小さな「嘘」が重なっていくうち、事態は思わぬ方向に展開していく。その先をここで明かしてしまうのはルール違反であるが、私たちは決して合理主義だけでは割り切れない人間の心の複雑さや不思議さに、思わずため息をつくはずだ。とくに愛情に支えられたルネとヴィヴィアンヌの「嘘」の先にある、笑いと涙とも異なる衝撃的ともいえる到達点には、言葉さえ失ってしまう。「嘘」に対するすべての先入観を捨てて、まずは見てほしい。そんな映画だ。



【もう、誰も信じられない。少女殺人事件が田舎町を「嘘」の迷宮に変える】

ブルターニュの町で暮らす画家ルネと看護婦ヴィヴィアンヌの夫婦を悪夢が襲った。ルネの絵画教室の生徒である少女が殺害されたのだ。女警部ルサーージュはルネを執拗に尋問、住人の疑惑の目が彼に注がれる。そんな中人気作家のデモがヴィヴィアンヌに接近してきた。事件以来、外界を避ける夫に悩むヴィヴィアンヌは快活なデモに安らぎを感じ親密な間柄になってしまう。そして偶然知った妻の「嘘」から、彼女の心がデモに傾きつつあることに気付くルネ…。殺人犯かも知れない夫、不貞を働いたかも知れない妻、町が疑心暗鬼に陥った中、第二の殺人が起きる…。

【サスペンスの巨匠クロード・シャブロールが観客に仕掛けた最新の罠】

『いとこ同志』『二重の鍵』から近年の『沈黙の女』『ロウフィールド館の惨劇』まで第一級のサスペンス映画を発表し続ける巨匠クロード・シャブロール。通算51作目に当たる『嘘の心』では先の読めないスリリングなストーリーを従来より抑えた演出で描いて新境地を見せ、40年を越える監督生活に於いて再び絶頂期を迎えたと言え、賞賛を浴びた。見事な演技の四重奏を奏でる出演者は『沈黙の女』で鮮烈な印象を残したサンドリーヌ・ボネール、『パリのレストラン』の注目株ジャック・ガンブランに『愛する者よ、列車に乗れ』のヴァレリア・ブルーニ・テデスキと元人気キャスターのアントワーン・ドゥ・コース。また『鳩の翼』『奇蹟の輝き』のエデュアルド・セラによる青を基調にしたカメラが本作を更に謎めいたものにしている。



【見終わったあと浮かび上がる、もうひとつの謎。あの人は、ほんとうに…】

話題作『アイス・ワイド・シャット』『MOTHER』が取り上げた様に、誰もが“一番身近な人ほど解らない”と感じたことがあるのではないだろうか。一緒に居ても、いや一緒に居ない見えなかった相手の意外な面が発露する驚きと不安、それらを増幅する「嘘」…。『嘘の心』はそんな感覚が極上のサスペンスに織り込まれた男と女のドラマでもある。「嘘」は二人を試し強くなるのか。夫婦の、愛の再生はあるのか。本作はすべての謎が明らかになった後、驚愕の結末ともうひとつの謎を見る者に残す。そこに描かれるある“行動”は男女関係の不可思議をまざまざと見せつける。この男と女の感情こそ、真犯人の解明よりも見る者を引きつけずにはおかない“永遠の謎”かも知れない。



嘘の心

サンドリーヌ・ボネール ジャック・ガンブラン
ヴァレリア・ブルーニ・テデスキ アントワーン・ドゥ・コース ビュル・オジェ
監督：クロード・シャブロール 脚本・台詞：オディール・バルスキナ・クロード・シャブロール
撮影：エデュアルド・セラ 編集：モニク・ファルデュリス 音楽：マチュー・シャブロール
製作：マラン・カルミツ 1999年フランス／1時間53分
カラー／ヴィスタ（1:1.66）／ドルビーSRD／配給：セテラ

レイトショー 9月16日(土)より(9/29金)21:00(～22:55)1回上映 ※日曜休映

モーニングショー 9月30日(土)より(10/13金)連日あさ10:00(～11:55)1回上映

梅田ロフトB1

06(6359)1080

テアトル梅田

●「クリクリのいた夏」前売券・半券をご提示の方は、1,500円に割引いたします。更にご提示の方でご希望の方のみ「嘘の心」モノクローム・キャビネを差し上げます。(限定50名)